

インドネシアには、文化や社会を知ることができる造語や表現が多くあるので、紹介してみたいと思います。

朝十時までの太陽は、マタハリ・セハット(元気な太陽)と呼ばれます。その時間の太陽は、すがすがしく健康になると、赤ん坊の日光浴時間とされています。赤道直下の常夏の国に暮らす人々が、太陽を敏感に感じて生きていることが分かります。

次にジャム・カレット(ゴム時間)。これは、ゴムのように伸び縮みする時間を表します。会議開始が遅れても「ジャム・カレットね～」ととぼけた表情で怒りません。昔、一日は一二時間に区切られていたため、二四時間に慣れないという人もいますが・・・？



こののんびりした人々も、バイクに乗るとスピードを出しすぎる傾向があります。その対策がポリシ・ティドゥール(寝ている警官)です。これは、道路に十センチくらいの盛り上りを作っている場所を指します。スピードを出しままでその盛り上がりにつつかると危ないので、みんなスピードを落とします。警官が寝ていてもスピード規制ができるというわけです。

最後に、クスムタン(たくさんのアリ)です。これは、しびれるという意味です。しびれた時の感覚が、たくさんのアリがいるような感じだからということのようです。インドネシアの多くの民族は、床にみんなが輪になって座って食べるが習慣です。日

本と同じく、靴を脱いで家にあがります。暑い国ですから、床はタイル張りでひんやりしています。そこにゴザを敷いて竹かごに盛られたご飯や鍋のおかずを置き、それを取り囲んで座って食べます。わいわい楽しく食べている間に、アリがたくさん寄ってきて、しびれるというわけです。そんな感じがしてきますね。

文: 広島大学 中矢礼美 准教授

イラスト: 県立広島大学 ロナルド・スチュワート 准教授

2012(平成 24)年 広報あきたかた 11月号掲載